

もりもり 森林と共に

一地域の東部は白鷹丘陵、西部は朝日山系、中央を最上川が流れ、豊かな自然に恵まれた町一

■地球環境と森林

令和3年11月白鷹町は2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロを目指す『白鷹町ゼロカーボンシティ宣言』を行いました。SDGsの視点を持った持続可能なまちづくりと、豊かな自然を次の世代に引き継いでいくための取組みを推進していくこととしています。

このゼロカーボンの取り組みを進めて行く上で、森林の働きによる二酸化炭素吸収や炭素の固定効果は非常に期待されています。

二酸化炭素の吸収量が多いとされる森林は、植林後20年から40年の成長期の森林と言われています。今後において、安定的な吸収源としての森林を確保するためには、伐期と言われる50年を経過した木材は伐採を進め、その後、再度植林し育てることが必要です。町は、この伐って、使って、植えて、育てる『緑の循環システム』の確立を目指しています。

■ゼロカーボンとは

温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させることを意味します。2020(令和2)年10月、政府は2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、ゼロカーボンを目指すことを宣言し

ました。

「排出を全体としてゼロにする」という意味は、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの「排出量」から、植林、森林管理などによる「吸収量」を差し引いて、合計を実質的にゼロにすることを意味しています。

■森林は炭素の貯蔵庫

森林を構成するそれぞれの樹木等は、光合成によって大気中の二酸化炭素を吸収し固定する機能をもっています。

森林から生産される木材をエネルギーとして燃やすと二酸化炭素



緑の循環システムイメージ図

が発生しますが、この二酸化炭素は、樹木の伐採後に森林が更新されれば、その成長の過程で再び樹木に吸収されることとなります。このように、木材のエネルギー利用は、大気中の二酸化炭素濃度に影響を与えないという「カーボンニュートラル」の特性を有しています。

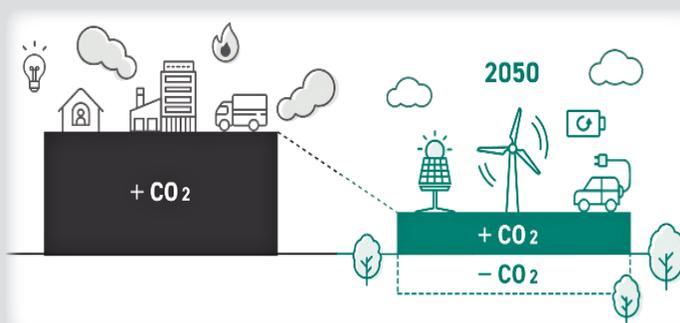
このため、化石燃料の代わりに木材を利用することは、二酸化炭素の排出の抑制につながり、地球温暖化防止に貢献します。

近年は、これまで森林に残されていた曲がり材などは木質バイオマス燃料として、熱源の利用やバ

イオマス発電などで有効利用されています。

人間ひとりが1年間で排出する二酸化炭素の量を固定するには40年生の杉で約150本必要とされています。白鷹町の人口は約1万2,000人です。180万本(約2,250ha)の杉が必要となります。

そして、鉄やコンクリートと比べ製造過程で二酸化炭素排出が少ないことに加え、二酸化炭素を固定する木材を建物の建材や家具等で利用することでより地球温暖化防止に貢献することになります。



温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、ゼロカーボンイメージ図